

ひょうご環境保全創造活動助成 活動報告書

団体名	NPO 法人 はりま田舎暮らしの会		
団体の所在地	兵庫県佐用郡佐用町	代表者名	理事長 本田 三郎

1. 事業名	わぼち 和蜂 まほろばの里 造成活動 パートⅡ		
2. 実施期間	平成28年4月1日から平成29年3月31日		
3. 主な実施場所	兵庫県佐用郡佐用町 皆田集落及び才金・大垣内・金屋集落他		
4. 活動形態	・団体立ち上げ ・普及啓発活動 ・実践活動 ・調査活動 ・環境パートナーシップ事業（協働団体名： ） ・その他（ ）		
5. 活動内容・結果 (参加者、階層・人数等)	1・平成28年5月3日に、地域づくり協議会と NPO 法人はりま田舎暮らしの会との協働イベントで「暮山レンゲ祭り」を開催しました。約160名の参加者で賑わいました。(佐用町福町長・議会副議長・自治会長他) レンゲ祭りの様子は地元のケーブル TV、町役場の広報誌にも取り上げられました。レンゲはその後、トラクターで 梳き込んで、緑肥として有機栽培の自然農法稲作としました。 2・平成28年9月18日にひょうご環境体験館のプログラムとして、ニホンミツバチ生息環境講座と巣箱作り教室を開催。巣箱材料費は貴協会からの助成金によるものです。一般親子連れ:20名参加 3・平成29年3月26日にひょうご環境体験館において、巣箱作り教室に参加された方を対象に、「春のミツバチ分蜂群の捕獲講座」と蜜蝋を巣箱に塗布しました。参加者親子連れ:16名 4・里山の環境保全・景観美化のため蜜源植物(レンゲ・菜の花・ヘアーリーベッチ・ソバ)を耕作放棄地の休耕田 29アールに播種しました。結果、分蜂は10群の捕獲に成功しました。(前年は6群)		
6. 成果・反響・ 反省点等	1・野生のニホンミツバチの生息環境は年々悪化をしています。微力ではありますが、周辺地域の環境保全と創造に力を傾注しているのが、世間でも認められて2件の相談を受けました。1番目はお墓の納骨室にミツバチが営巣してお墓参りに支障がある。 2番目は八幡神社の本殿に大規模な営巣が見つかり、秋の大祭に支障があると、駆除を依頼されました。薬剤による駆除ではなく、別の巣箱への「引っ越し」を行い、喜んでもらいました。神社の引っ越しはかなり大掛かりだったため、ローカル TV 局の取材を受け、地元で放映されました。 2・ニホンミツバチの天敵としては、オオスズメバチ・蛾の幼虫ススムシが有名ですが、一番の天敵は人間なのです。「ハチは刺すから怖い」と云った誤解と偏見で薬剤駆除をしてしまう。あるいは、「蜂群崩壊現象症候群」に代表される「ネオ・ニコチノイド系農薬」散布による大量殺戮と浸透性・残留性による農薬被害が原因の発育不全が乳幼児に現れてきている実態を看過する訳にはいきません。NPO だけの活動では限界があるので、あらゆる分野への情報発信と啓蒙を継続していく必要があります。持続可能な環境活動として実践してまいります。		
7. 成果物	1・ ニホンミツバチの巣箱(重箱式) 2・分蜂群捕獲用待ち受け箱(丸洞式)と誘引剤(人工キンリョウヘン)		
8. 活動写真 説明	<div style="display: flex; flex-wrap: wrap;"> <div style="width: 50%; text-align: center;">  </div> <div style="width: 50%; text-align: center;">  </div> </div> <p style="margin-top: 10px;">ミツバチの巣箱作り教室を開催。親子連れで賑わいました。(左(左上)) 里山の環境と美観を意識した蜜源花。ヒマヤマ原産の珍しい「赤ソバの花」(右上)</p> <div style="display: flex; flex-wrap: wrap; margin-top: 10px;"> <div style="width: 50%; text-align: center;">  </div> <div style="width: 50%; text-align: center;">  </div> </div> <p style="margin-top: 10px;">野生の和蜂を保護・飼育するための重箱式巣箱と捕獲に成功した</p>		